

安全データシート



1. 化学品及び会社情報

法人名 : 国立研究開発法人産業技術総合研究所
住所 : 東京都千代田区霞が関 1-3-1
担当部門 : 計量標準総合センター 計量標準普及センター 標準物質認証管理室
担当者 : 認証標準物質担当
電話番号 : 029-861-4059 ファックス番号 : 029-861-4009
緊急連絡電話番号 : 同上

作成日 : 2022年5月26日

整理番号 : 5122002

化学品の名称(製品名) : 認証標準物質 NMIJ CRM 5122-b
電気伝導率標準液 (塩化カリウム水溶液 (0.1 mol kg⁻¹))
(Electrolytic Conductivity Standard Solution –
Aqueous Solution of Potassium Chloride (0.1 mol kg⁻¹))

推奨用途及び使用上の制限 : 本標準物質は、電気伝導率の校正に用いることができる。試験・研究用以外には使用しないこと。
本標準物質は、標準物質 (日本産業規格 (JIS) Q0030 に定められるもの) である。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類 : 分類できない

GHS ラベル要素 : —

注意喚起語 : —

危険有害性情報 : —

注意書き : [安全対策]
個人用保護具を着用すること。

[応急措置]

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合、医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合、多量の水で洗い流す。

吸入した場合、呼吸が困難な場合には、空気が新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。

[保管]

ガラス容器に密閉した状態で、15 °C から 30 °C の範囲の温度で清浄な場所に保存すること。

[廃棄]

関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。

都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

上記で記載が無い危険有害性は分類対象外または分類できない。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物
 成分(1)
 化学名又は一般名 : 水
 CAS 番号 : 7732-18-5
 化学特性 : H₂O
 分子量 : 18.02
 含有量 : 約 99 %
 官報公示整理番号(化審法) : -
 官報公示整理番号(安衛法) : -

成分(2)

化学名又は一般名 : 塩化カリウム
 CAS 番号 : 7447-40-7
 化学特性 : KCl
 分子量 : 74.55
 含有量 : 約 0.7 %
 官報公示整理番号(化審法) : 1-228
 官報公示整理番号(安衛法) : 公表

4. 応急措置

吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、安静、保温に努める。医師の診断を受ける。
 皮膚に付着した場合 : 清浄な水で十分に洗い流す。汚染された衣服や靴等は脱がせ、医師の診断を受ける。
 眼に入った場合 : 清浄な水で十分に洗い流す。医師の診断を受ける。
 飲み込んだ場合 : 水でよく口の中を洗浄する。医師に連絡する。
 応急処置をする者の保護 : 個人用保護具を着用すること。

5. 火災時の措置

消火剤 : 周辺火災適応消火剤。
 火災時の特有危険有害性 : 特になし。
 特有の消火方法 : 火元の燃焼源を断ち、消火剤を用いて消火する。移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合には周辺を水噴霧で冷却する。
 消火を行う者の保護 : 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。防火服、耐熱服、防護衣、空気呼吸器、循環式酸素呼吸器、ゴム手袋、ゴム長靴等の保護具を使用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 皮膚、眼および個人の衣服の汚染を防止するため、適切な保護具を着用する。
- 保護具及び緊急時措置 : 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入したりしないようにする。
- 環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
- 回収、中和 : 漏出した液は、ウエス、雑巾または土砂等に吸着させて空容器に回収し、そのあとを多量の水を用いて洗い流す。
- 二次災害の防止策 : 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。風上から作業して、風下の人を退避させる。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 局所排気装置を使用すること。
- 局所排気・全体換気 : 蒸気やミストが発生する場合は、発生源を密閉し局所排気装置を設置する。
- 安全取扱注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに蒸気を発生させない。
使用後は容器を密閉する。
取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。
指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。
休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。
取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れたりしないように、適切な保護具を着用する。
屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。

保管

- 適切な保管条件 : ガラス容器に密閉した状態で、15 °Cから 30 °Cの範囲の温度で清浄な場所に保存すること。
- 安全な容器包装材料 : ガラス

※標準物質としての適切な保管条件、使用に関する注意事項については、認証書を参照のこと。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度

設定されていない

許容濃度

- ・ACGIH TLV-TWA : 設定されていない
- ・日本産業衛生学会勧告値 : 設定されていない
- ・OSHA PEL TWA : 設定されていない

設備対策

- 換気・排気 : 局所排気装置又は全体換気装置。
- 安全管理・ガスの検知 : 測定器、検知管。
- 貯蔵上の注意 : 取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。密封。

保護具

- 呼吸器の保護具 : 保護マスク、空気呼吸器
- 手の保護具 : 保護手袋
- 目の保護具 : 保護めがね
- 皮膚及び身体の保護具 : 保護衣、顔面シールド。

衛生対策

- 産業衛生および安全の基準に基づいて取り扱うこと。

9. 物理的及び化学的性質

- ・外観 : 液体
- ・色 : 無色
- ・臭い : 無臭
- ・pH : 中性
- ・融点 : データなし
- ・沸点 : データなし
- ・引火点 : 不燃性である
- ・爆発範囲 : データなし
- ・蒸気圧 : データなし
- ・相対蒸気密度 (空気 = 1) : データなし
- ・比重又は嵩比重 : データなし
- ・溶解度 : 水と任意の割合で混和する。エタノールでは白い沈殿 (塩化カリウム) が析出する。
- ・ n_D^{20} / オクタノール / 水分配係数 $\log P_o/w$: データなし
- ・自然発火温度 : 不燃性である
- ・分解温度 : データなし
- ・燃焼性 : 不燃性である

10. 安定性及び反応性

- ◇安定性
 - ・推奨保管条件下で安定。
- ◇反応性
 - ・データなし
- ◇危険有害反応性
 - ・データなし

◇避けるべき条件

- ・日光、熱、との接触
- ・水反応可燃性物質との接触

◇混触危険物質

- ・データなし

◇危険有害な分解生成物

- ・ハロゲン化物、カリウム酸化物

11. 有害性情報

【塩化カリウムとして】

| | |
|-----------------------|--|
| 急性毒性 | 経口 ラット LD50=2600 mg/kg |
| 発がん性 | データが不十分。なお、ラットの2年間経口投与試験では発がん性を示唆する所見は認められていないが、1種の動物のみのデータでは分類に不十分。 |
| 生殖毒性 | 妊娠ラットおよびマウスの器官形成期に経口投与した試験で仔の発生に悪影響は認められないが、親動物の性機能または生殖能に関してデータが不十分。 |
| 特定標的臓器／全身毒性 (反復暴露) | ラット雄の2年間経口投与試験で、唯一の影響は、刺激性としての胃炎のみでNOAELは1820 (mg/kg)day。また、ラット雌の520 (mg/kg)dayを105日間経口投与した試験での影響は全て回復性であり重大な毒性影響はない。これらの用量はガイダンス値区分2上限を超えている。なお、ヒトで85 (mg/kg)dayを4週間、69 (mg/kg)dayを6週間の経口投与により悪影響がなかったことが報告されている。 |

その他

※有害性情報については、混合物としての情報がいないため、原材料の情報より作成しています。本製品は通常の条件下では安定であり、有害な添加剤成分が溶出する等の危険はありませんが、高温下での使用など特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を行ってご使用ください。

12. 環境影響情報

生態毒性

- ・甲殻類 (オオミジンコ) LC50=660 (mg/l)48H

分解性・濃縮性

- ・データなし

生体蓄積性

- ・データなし

土壌中への移動性

- ・データなし

オゾン層への有害性

- ・データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 中和法

徐々に石灰乳などの攪拌溶液に加え中和させ、多量の水で希釈して処理する。

廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。

なお上記方法による処理が出来ない場合は都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国連番号 : 該当なし

国連分類 : -

品名 : -

容器等級 : -

ICAO/IATA : 該当なし

海洋汚染物質 : 施行令別表第1 有害液体物質 Z類同等物質

注意事項 : 直射日光を避け、落下、転倒等による漏洩及び火気に十分注意し、慎重に運搬する。

15. 適用法令

適用法令なし

16. その他の情報

その他

記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、全ての情報を網羅しているわけではありません。また、注意事項は通常の実施を前提としたものであって、特殊な取扱いの場合は、用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

記載内容は情報提供を目的としており、取扱い上のいかなる保証をなすものではありません。